

AmateurPANCRASE MMA YOUTH ルール

○カテゴリー

YouthB 14歳-15歳 4分 1R

YouthC 12歳-13歳 3分 1R

YouthD 10歳-11歳 2分 1R

○階級

- -27 kg / 59.5 lbs
- -31 kg / 68.0 lbs
- -34 kg / 75 lbs
- -37 kg / 81.6 lbs
- -40 kg / 88.2 lbs
- -44 kg / 97 lbs
- -48 kg / 105.8 lbs
- -52 kg / 114.6 lbs
- -57 kg / 125.7 lbs
- -62 kg / 136.7 lbs
- -67 kg / 147.7 lbs
- -72 kg / 158.7 lbs
- +72 kg / 158.7 lbs - 最大 77.1KG / 170 lbs まで

○試合

判定

(1)判定はラウンドマスト・システムが採点の標準システムである。

- **メイン基準 (MAIN ONE):**
 1. 効果的な打撃 / 組み技 (Effective Striking/Grappling)
- **バックアップ基準 (BACKUP CRITERIA):** 2. 効果的な積極性 (Effective Proactively) 3. 効果的な試合コントロール (Effective Bout Control)

○反則

※グラウンドポジション

手や足以外の体の一部がキャンバスに接触している場合

全カテゴリー共通の反則行為

ユニファイド MMA ルール及びアマチュアパンクラス S クラスルールの反則に加え、YOUTH ルールにおいては以下の行為が禁止

- ①頭部または顔面への打撃は一切禁止
- ②膝による打撃攻撃は一切禁止

- ③いかなる形のグラウンド打撃も禁止
- ④上腕二頭筋またはふくらはぎ潰し（バイセップ/カーフクラッシュ）禁止
- ⑤リストロック（手首固め）禁止
- ⑥膝に負担を与える全ての（足）関節技は禁止
 - *正当な脚攻撃は、ストレートアキレスロックおよび足を真っ直ぐにした状態でのフィギュアフォーアングルロックのみ
- ⑦スタンディングでのギロチンチョーク及びアームインしていないギロチンチョークは禁止
- ⑧オモプラータは禁止
- ⑨スープレックス、持ち上げての投げ、ショルダスロー、ジャンピングサブミッション及びジャンピングガード、足関節への飛びつき（シザーステイクダウン）禁止
- ⑩頭から落ちるテイクダウンは一切禁止
- ⑪膝への直線的なキック（関節げり）禁止
- ⑫グラウンド状態からの上げ蹴り（アップキック）禁止
- ⑬フットスタンプ禁止
- ⑭エレクトリックチェア（股裂き）（サブミッションとして）禁止
- ⑮バナナスプリット（股裂き）（サブミッションとして）禁止

※上記には、ユニファイド MMA ルール、アマチュアパンクラス S クラスルールにおいても禁止されている重複項目もあり

○上記に加え禁止される反則行為

YouthC 12歳-13歳 YouthD 10歳-11歳

- ①全ての足関節技は禁止
- ②いかなる種類のギロチンチョークも禁止
- ③ボディスクイズ（胴締め）禁止
- ④ティーピーチョーク禁止

☆補足 i (Addendum)

1. フィギュアフォーアングルロックは真っ直ぐな足にのみ適用されるべきであり、サブミッションをかけている間、膝をねじることは許可されない。
2. ギロチンチョークは「アームイン」タイプであり、かつグラウンドポジションでフィニッシュされなければならない。

☆補足 ii (Addendum)

1. ジャンピングガードおよびジャンピングサブミッションの禁止
 - ガードおよびサブミッションへの飛びつきは厳禁である。
 - ガードへの引き込み（プリングガード）は許可される。つまり、選手は座ったり、相手をガードに引き込んだりすることはできるが、ガードポジションを開始するために跳躍したりジャンプしたりす

ることは許可されない。

- このルールは、下肢への怪我の可能性や偶発的な頭部衝突など、ジャンピングガードに関連する不必要なリスクを最小限に抑えることを目的としている。

☆主な違い (Key Differences):

- A. ガードへの引き込みまたはサブミッションへの引き込みは許可: 選手は相手を引きずり下ろしたり、スムーズにグラウンドへ移行したりすることで、相手をガードに引き込むことができる。
 - B. ジャンピングガードおよびジャンピングサブミッションは禁止: 選手はガードを確立するためにジャンプしたり跳躍したりしてはならない。そうしようとする試みはすべてペナルティの対象となる。そのような行為は、警告 (意図的でない場合)、減点 (無謀とみなされる場合)、またはレフェリーが意図的な反則であると判断した場合は失格となる可能性がある。
2. いかなる投げも、腰投げ (ヒップトス) のバリエーションでなければならず、かつ頭と腕の両方をコントロールしていなければならない。アマチュアの最年少グループが競技する前提は、安全性を高めた環境において総合格闘技の技術を適用し、適応させることに重きを置くものとする。
 3. ティーピーチョーク (サブミッション) ティーピーチョークとして知られる動きは、気管および頸動脈の圧迫による直接的な絞め技として分類され、軽度の頸部屈曲および前面からの圧迫を伴うが、脊椎のねじれは伴わない。

◎総意

上記に詳述された技術的制限は、若い競技者が不必要な怪我や外傷のリスクを負うことなく、競技形式の中で必要な時間と経験を得ることを可能にし、促進するものである。

その結果、レフェリーは、技術が自由かつ公然と使用・適用されることは許可するが、必ずしも (完全に) フィニッシュされることは許可しないよう指示されるものとする。言い換えれば、正当なサブミッションホールドに捕らえられた若い競技者には、上級のシニア選手が脱出 (エスケープ) に利用できるような猶予や時間は与えられないものとする。このような低年齢層においては、若い選手に不必要な怪我をさせたりリスクを負わせたりしないという「安全第一」の観点から、重点がより強調されることを認識しなければならない。

結果として、「テクニカルサブミッション (見込み一本)」が、試合の決定および終了においてより頻繁に発生することになる。

参考：アマチュアパンクラス S クラスルールにおける反則行為

反則行為

- (1) 頭突き
- (2) 目潰し
- (3) 嘔み付く
- (4) 相手に唾を吐く
- (5) 髪を引っ張る
- (6) フィッシュフッキング
- (7) 股間へのあらゆる攻撃
- (8) 相手の体の開口部や傷口、裂傷部に指を入れる
- (9) 小さな関節（手足の指）を巧みに操る攻撃（small joint manipulation）
- (10) 肘や前腕部による打撃攻撃
- (11) 頭部・顔面への膝による打撃攻撃
- (12) グラウンド状態の相手への踏みつけ（立位でのフットスタンプは合法）
- (13) 相手の顔や目に向けて広げた指を向ける行為
- (14) 喉へのあらゆる打撃、気管を掴む行為
- (15) 皮膚を掴む、つまむ、ひねる
- (16) グラウンドポジションの選手に対する頭部・顔面への足による打撃攻撃
- (17) フェンスや試合場を構成する部位を掴む
- (18) 相手のコスチュームやグローブを掴む
- (19) 試合場内で口汚い言葉を吐く
- (20) 相手の負傷の原因となるようなあらゆる非スポーツマン的行為
- (21) ブレイク中の相手への攻撃
- (22) レフェリーのチェックを受けている最中の相手への攻撃
- (23) ラウンド終了の合図が鳴らされたあとでの相手への攻撃
- (24) 相手との接触を避けるあらゆる消極的な姿勢（意図的または継続してマウスピースを落としたり、怪我のふりをするなど）
- (25) 試合場外に相手を投げる
- (26) 審判員の指示を著しく無視する
- (27) 相手の頭や首をキャンバスに突き刺す（いわゆるスパイクキング）
- (28) 相手の頸椎や脊椎に著しくストレスを与える行為（いわゆるツイスター、ネッククランク、キャンオープンナー等）や肋骨圧迫行為
- (29) 膝関節を狙った直線蹴り
- (30) 競技場の状態により主催者の判断で 頭から落ちるようなスラム、投げ技等を反則に規定することができる
- (31) ヒールフック
- (32) 審判員が塗布する以外の塗布物を塗布する行為
- (33) 試合前に審判員によるチェックを受けていないテーピングや競技用具の着用
- (34) 審判員に対する虚偽のアピール、言動
- (35) 試合用コスチューム、マウスピース、ファウルカップ等の競技用具を破損し、試合続行を不可能にする行為
- (36) 非紳士的行為

(37)セコンドによる妨害

競技用具等

必ず着用しなければならない競技用具

- (1) オープンフィンガーグローブ
- (2) マウスピース
- (3) ムエタイカップ (Yuoth ルールにおいては、安全性が認められれば、ムエタイカップ以外の物の使用が認められる) (男子)
- (4) 男子競技者用コスチューム

男子上半身：半袖のラッシュガード (身体にフィットしたもの)

男子下半身：MMA ショーツ、バーリトゥードショーツ、キックボクシングショーツ、ショートスパッツ等

- i) 金属・プラスチックの部品が使用されていないもの
- ii) 着用時にずれないための加工がされているもの
- iii) ポケットや紐に類するものが表側に付いていないもの
- iv) 膝上丈までのもの
- v) 清潔で破損の無いもの
- vi) ショーツの下にショートスパッツを履く場合、ショーツの丈を超えるものを着用してはならない。
- vii) その他、審判員により競技上支障がないと判断されたもの

(5) レッグサポーター (アマチュアパンクラス公認用具を各自持参)

(6) 女子競技者用コスチューム 全て膝上丈までとする (ラッシュガード、セパレート、ワンピース等) (女子)

任意で着用できる競技用具

(1) バンテージおよびテーピング

- 1) 競技者は、手にバンテージやテーピングを巻く場合、拳の前面部 (ナックルパート) および拳骨部分にテーピングを使用してはならない。ただし、指と指の間に細く切ったテープを通すことは認められる。
- 2) バンテージ、テーピングの内部に芯、紙縊り、その他の異物を巻き込んではならない。
- 3) 拳に装着した状態で拳骨の形が確認できない厚さに巻いてはならない。
- 4) 肘、膝の部分をバンテージやテーピングで覆ってはならない。

(2) サポーター

競技者は、金属・プラスチック・硬質ゴム等の部品が使用されておらず、また、緩衝素材等によるパディングがされていない布製またはネオプレン製もので、審判員が競技に支障がないと認めるサポーター類を下肢 (膝、足首) に着用することができる。

(3) アブドメンガード (女子)

(4) チェストガードまたは胸部のパッド (女子)

セコンド

セコンドの人数

(1)1名

提訴

(1)提訴は一切認められない。

Aクラス

※Sクラスルールに準じ以下の制限を設ける。

試合時間

3分 2R+EX1R

グラウンドポジション

足部(足首より下の部分)以外の身体部位がマットに付いた状態。

反則

反則行為

※Sクラスルールに加え制限される行為。

①どちらか一方の選手でもグラウンドポジションになった場合の頭部・顔面に対するあらゆる打撃攻撃

競技用具等

必ず着用しなければならない競技用具

※Sクラスルールに加え着用しなければならない競技用具。

- ①ニーガード (アマチュアパンクラス公認用具を各自持参)
- ②ヘッドガード (アマチュアパンクラス公認用具を持参可)

Bクラス

※Aクラスルールに準じ以下の制限を設ける。

反則

反則行為

※Aクラスルールに加え制限される行為。

- ①レッグサポーター装着部分以外による頭部・顔面への打撃攻撃(足の裏やかかとでの打撃は反則)
- ②どちらか一方の選手でもグラウンドポジションになった場合のあらゆる打撃攻撃
- ③スタンド状態での関節技(ただし絞め技は認める)
- ④首、足首、手首を捻る関節技
- ⑤相手を頭部から落とす投げ技、落とし技

競技用具等

必ず着用しなければならない競技用具

※Aクラスルールとは異なる競技用具。

- ①ヘッドギアは着用しない。

Cクラス

※A クラスルールに準じ以下の制限を設ける。

反則

反則行為

※A クラスルールに加え制限される行為。

①全ての打撃攻撃

※A クラスルールとは異なる部分。

①ヒールフックは有効技となる

競技用具等

※A クラスルールと異なる競技用具。

①オープンフィンガーグローブは着用しない。

②マウスピースの着用は任意とする。

③ファールカップはムエタイカップ（金属製のカップを紐で固定するタイプのもの）に加え、プラスチック製やサポーター型の履くタイプの物も使用が認められる。（男子）

④ニーガード、レッグサポーターは着用しない。

⑤女子競技者用コスチューム（ラッシュガード、セパレート、ワンピース等）（女子）